

TRANSITION TO HEALTH (064)

乳がんの予防法を伝えない日本 ②

～ 静岡県女性は、乳がんになりやすく死にやすい！？ ～

はじめに

前号では、「日本のメディア・医師・管理栄養士は乳がんの予防法を伝えていない」という話をさせていただいた。

『牛乳・乳製品と乳癌』との関係は『タバコと肺癌』との関係の3倍以上と昔からいわれており、「『牛乳』『チーズ』『霜降り和牛』を礼讃し続けている限り、日本では乳がんは今後も増え続けるであろう」とも話させていただいた。

日本人女性の乳がんの罹患率は、乳製品の消費量の多い広島県、沖縄県、東京都、富山県、北海道、石川県などで高く、逆に、乳製品の消費量が少ない鹿児島県・熊本県・佐賀県などでは低い傾向にあった。

『牛乳・乳製品と乳癌』との関係は、世界的には40年ほど前からの常識であるとは私に思っていたが、日本でも、やはり同様であると考えられる。今号では、日本における静岡県女性の乳がんの罹患率・死亡率について考察してみたい。

静岡県女性の全部位のがん死亡率は、なぜ高いのか！？

昨年 2017 年9月 20 日、厚生労働省の研究班（国立がん研究センター）が、日本のがん罹患数・率の最新全国推計値を公表した。（右写真『全国がん罹患モニタリング集計 2013 年罹患数・率報告』）

この集計の中の2013年の罹患数（地域がん登録全国推計によるがん罹患データ）と2015年の死亡数（人口動態統計によるがん死亡データ）から、静岡県人の全部位のがんの罹患率と死亡率の47都道府県中の順位を調べてみた（右下）。

静岡県は、がん罹患率では、47都道府県中、男女ともに42位と低い県に属する。温暖な気候と緑茶効果のなせる業なのであろうか。

ところが、死亡率になると、男性は40位と、まあまあ低いのだが、女性は26位と、一気に順位を上げてしまう。何故、静岡県女性は、がん死亡率が高くなってしまっているのか。致死率の高い臓器のがんに罹っているのか、治療に消極的なのか、あるいは治療法自体に問題があるのか。



全部位のがんの罹患率・死亡率の高さ

47都道府県中 静岡県は？	男性	女性
罹患率	42位	42位
死亡率	40位	26位

なぜ 静岡県女性は死亡率を上げてしまうのか！？

公益財団法人 静岡県産業労働福祉協会

〒421-0113 静岡市駿河区下川原 6 丁目 8 番 1 号

TEL054(258)4855(代) FAX054(258)4403

<http://www.kenshin-shizuoka.net>

E-mail: info@kenshin-shizuoka.net

静岡県女性の乳がん罹患率は高く、死亡率はさらに高い

静岡県女性の全部位のがん罹患率は47都道府県中42位、死亡率は26位であったが、乳がんに限ってみると、罹患率は**28位**と高く、死亡率はなんと**16位**にまで順位が上がってしまう(右)。何故か。

牛乳・乳製品、肉(特に牛肉)の過剰摂取が乳がんの主要原因であることは疑いの余地はないのであるが、乳製品の中でも特に**チーズの過剰摂取**が、一番の要因ではないかと私は考えている。

ここで、スイスの乳がん事情についてみてみよう。

チーズをよく食べるスイスでは乳がんが多発(ただし、死亡率は低い)

まず、日本のがん事情についてみてみよう。

女性は、閉経するまでは女性ホルモンに守られているので、がんをはじめ、生活習慣病は男性に比べ少ない。閉経前は女性ホルモンに守られて生き、閉経後、男性に近づいていくのだが、人生の半分以上を女性ホルモンに守られて生きているので、最終的には、がんの男女比は70:30となっている。

ところが、スイスでは男女比は**39:61**と逆で、女性のがんの**34%以上**が乳がんである。スイスに

詳しい北海道の知人酪農家の話であるが、スイスでは標高の高い地域では、自家製のチーズが主食であるという。他の職場で働く家族は、2時間の昼休みには自宅に戻り、自家製チーズ中心の様々なレシピを堪能しているのだという。

チーズなどの乳製品の過剰摂取で、女性は**乳がん**に、男性は**前立腺がん**になりやすくなるのだが、乳がんの自然史は短く、前立腺がんの自然史は長い。前立腺がんは、思春期にがんが芽生えても、症状が出て顕在化するのに40年以上かかるといわれている。ところが、乳がんは週単位・月単位で急激に増殖・進行する場合がある。去年の検診で異常がなくても、今年すでに3cmの乳がんが出来上がってしまっているなどという、急速に進行する中間期癌といわれるものもある。スイスでは男性も女性もチーズをたくさん食べるのだが、がんになる割合は、男:女=39:61で、日本と違い女性に圧倒的に多いという特徴がある。その原因は、チーズと乳がんの進行の速さ・自然史の短さであろう。

スイス：マンモグラフィー検診に対し廃止勧告(2014年9月)

特定のがん(スイスでは乳がん)が多発すれば、その治療法は進歩し、検診も普及する。ところが、2014年9月、スイスの医療委員会は「マンモグラフィー検診は**乳がんによる全死亡率を低下させない**」(被爆で癌を発生させる、過剰診断・誤診も多い)と結論づけ、**廃止を勧告**した。英国の医学誌「ニュー・イングランド・ジャーナル・オブ・メディシン誌」に正式に報告している。今では、アメリカでもカナダでも、マンモグラフィー検診は推奨されていない。

終わりに ～ 牛乳・乳製品(特にチーズ)は食べすぎないで!!

牛乳は**牛の赤ちゃん専用**の母乳であり、人間が飲むことは自然の摂理に反する。妊娠牛から搾られる牛乳由来の**カゼイン蛋白**・過剰な牛の**IGF-1**(インスリン様成長因子-1)・**エストロゲン**は、人の乳児の30倍以上の**猛烈な勢い**で細胞を**分裂・増殖**させる力を秘め(牛の赤ちゃんは**1日に1kg**以上体重を増やす)、必然的にDNAの**転写ミス**の機会が増えて**癌化**し易く、**微小乳癌**ならば**数か月で一気に増殖**する。かつては日本でも、乳癌を経験した女性を中心に、「**小学校給食での牛乳の提供に反対する動き**」があったのだが、今はどうなってしまったのだろうか? **学校給食・病院食に牛乳が出され、乳腺外科医が患者さんに牛乳・乳製品の摂取を禁止指導しない!** 行政・医療関係者が、牛乳は完全栄養食品と考えている、牛乳ヨーグルトは発酵食品だからさらに体に良いと考えているから救いようがない。一体、日本の医療は、これから何処に向かっていってしまうのか? 喫煙者が肺がんや心筋梗塞になれば禁煙するものだ。静岡県の女性は、乳がんになってもチーズなどの乳製品を食べ続けて、がんを悪化・再発させているのであろうか。

